

主要プロジェクトの進捗状況について

1 主旨

主要プロジェクト 19 事業の進捗状況（令和 7 年 10 月末時点）を報告する。

2 進捗状況

(1) 事業を完了したもの（2 事業）

主要プロジェクト		進捗状況
① 三次市－安芸高田市緊急連絡管整備	三次市水道事業 安芸高田市水道事業	令和 5 年度に事業完了
② 三次市－庄原市緊急連絡管整備	三次市水道事業 庄原市水道事業	令和 5 年度に事業完了

(2) 事業に着手しているもの（16 事業）

ア 工事を進捗中又は今年度に工事着手を予定しているもの（9 事業）

主要プロジェクト		進捗状況
③ 二期トンネル整備	広島水道用水供給事業	工事を進捗中 （令和 7 年度末までに整備完了予定）
④ 宮島海底送水管の二重化	廿日市市水道事業	工事を進捗中 （令和 7 年度末までに整備完了予定）
⑤ 東広島市域工業用水道整備事業	工業用水道事業	工事を進捗中 （令和 8 年度末までに整備完了予定）
⑥ 城山浄水場導送水管整備	府中市水道事業	工事を進捗中 （令和 9 年度末までに整備完了予定）
⑦ 基幹管路の耐震化	全水道事業	令和 7 年度に予定している 54 件の工事のうち、37 件の工事に着手
⑧ 江田島海底送水管の二重化	広島水道用水供給事業	令和 8 年 1 月に工事着手予定 ※海底磁気探査等の結果、管敷設工事に支障となる海底の磁気異常点が確認され、不発弾でないかの調査及び支障物の撤去に必要な費用を追加計上するよう整備費を見直し
⑨ 新成井浄水場新設	竹原市水道事業	令和 7 年 11 月に工事着手予定
⑩ 本郷埴田浄水場ろ過池拡張整備	沼田川水道用水供給事業	令和 8 年 1 月に工事着手予定
⑪ 本郷埴田浄水場－片山浄水場連絡管整備	三原市水道事業	令和 7 年 12 月に工事着手予定

イ 今年度に事業内容を精査したもの（５事業）

次の５事業（下表⑫～⑯）については、建設工事費の増加が見込まれることから、構成団体の意見を聴きながら、将来の更新費・維持管理費を含めた４０年間のトータルコストの縮減が図られるよう、次の視点により事業内容を精査した。

- ・⑫～⑭については、既存施設を最大限活用しつつ、将来の水需要を踏まえ、施設整備の規模や期間を精査することにより整備費を縮減する
- ・⑮、⑯については、周辺施設の更新や広域計画策定後に生じた新たな課題への対応を含めて一体的に整備することにより整備費を縮減する

主要プロジェクト	内容	期間		整備費(億円：税抜)		
		当初 (R4)	精査後	当初 (R4)	精査後	
					うち R5～14	
⑫ 向江田浄水場送水管整備 (三次市水道事業)	施設整備の規模や期間を精査することで整備費を縮減	R5～12	R5～34	22	50	26
⑬ 土師広域浄水場新設 (安芸高田市水道事業 北広島町水道事業)	施設整備の規模や期間を精査することで整備費を縮減	R5～20	R5～34	121	206	194
⑭ 黒淵浄水場・さかえ浄水場 送水管整備 (世羅町水道事業)	施設整備の規模や期間を精査することで整備費を縮減	R5～14	R5～24	14	40	31
⑮ 前早世浄水場ろ過施設整備 (江田島市水道事業)	浄水場の集約にあわせて、周辺の２つの配水池の集約も含め一体的に行うことで整備費を縮減	R6～11	R6～12	25	30	同左
⑯ 西野浄水場ろ過施設整備 (沼田川水道用水供給事業 三原市水道事業)	ろ過施設整備にあわせて、新たな課題である水源の濁度上昇対策を一体的に行うことで整備費を縮減	R5～12	R5～14	50	146	同左

ウ 事業内容を継続検討するもの（２事業）

次の２事業については、東広島地域において様々な水需要を見込む中で、将来の水需要の見通しを見極めたうえで、最適な供給方法の検討を進め、事業内容を精査することとした。

主要プロジェクト	検討状況
⑰ 福富広域浄水場新設 (広島水道用水供給事業)	・東広島地域への給水について、現時点で具体性が高まっている水需要に対して、必要な施設整備を優先的に行うこととし、本郷埴田浄水場の拡張に加え、さらに施設の強靱化等の要否を検討 ・福富広域浄水場新設などは、将来の水需要の見通しを見極めたうえで、最適な供給方法の検討を進め、事業内容を精査 【参考】当初内容(R4) 期間 ⑰:R5～13 ⑱:R5～11 整備費 ⑰:65億円 ⑱:17億円
⑱ 広島用水ー沼田川用水緊急 連絡管整備 (広島水道用水供給事業、 沼田川水道用水供給事業)	

(3) 令和８年度から事業着手を行う予定のもの（１事業）

主要プロジェクト	進捗状況
⑲ 佐伯地区送水管整備	廿日市市水道事業 西部地域水道用水供給事業 令和８年度に基本設計に着手予定

主要プロジェクトの概要

(1) 事業を完了したもの（2事業）

① 三次市－安芸高田市緊急連絡管整備（三次市水道事業、安芸高田市水道事業）

三次市水道事業と安芸高田市水道事業で、緊急連絡管を整備【令和5年度事業完了】

〔場所〕

三次市上川立町～安芸高田市甲田町

〔整備概要〕

緊急連絡管の整備

〔整備費〕

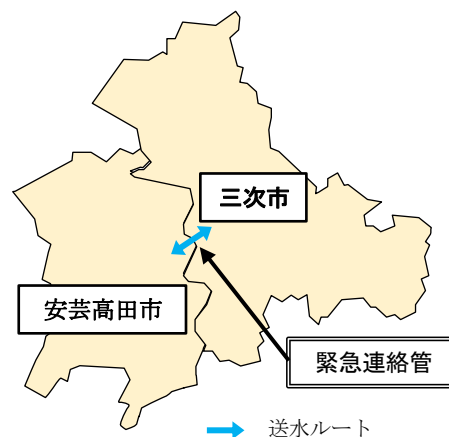
41 百万円（税抜）

〔事業期間〕

令和5年度

〔効果〕

緊急連絡管の整備により、緊急時に、三次市と安芸高田市の市境に給水車の補給拠点を設置することが可能となり、応急給水を迅速化



② 三次市－庄原市緊急時連絡管整備（三次市水道事業、庄原市水道事業）

三次市水道事業と庄原市水道事業で、緊急連絡管を整備【令和5年度整備完了】

〔場所〕

三次市和知町～庄原市平和町

〔整備概要〕

緊急連絡管の整備

〔整備費〕

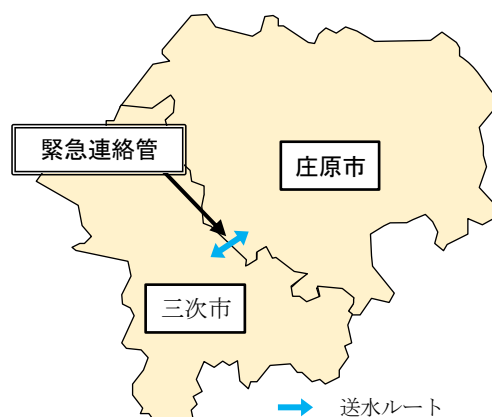
34 百万円（税抜）

〔事業期間〕

令和5年度

〔効果〕

緊急連絡管の整備により、緊急時に、三次市と庄原市の市境に給水車の補給拠点を設置することが可能となり、応急給水を迅速化



(2) 事業に着手しているもの（16 事業）

ア 工事を進捗中又は今年度に工事着手を予定しているもの（9 事業）

③ 二期トンネル整備（広島水道用水供給事業）

海田町と呉市を結ぶ2本目の送水トンネル（二期トンネル）を整備

〔場所〕

安芸郡海田町東海田～呉市二河峡町

〔整備概要〕

送水トンネルの整備

【海田～矢野工区】工事延長 4,812m

【矢野～二河工区】工事延長 9,532m

〔整備費〕

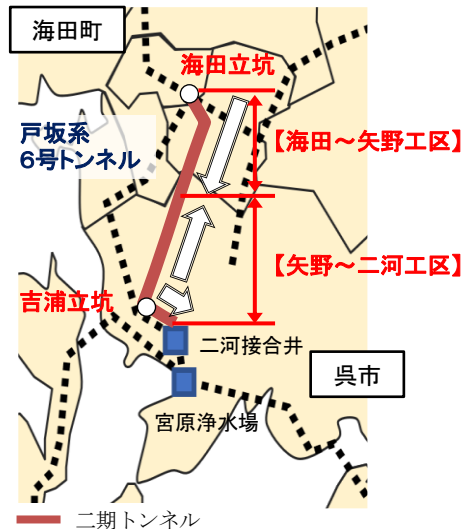
17,545 百万円（税抜）

〔事業期間〕

平成 28 年度～令和 7 年度

〔効果〕

戸坂 6 号トンネルと併せて、送水トンネルが二重化されることにより、呉市、江田島市、大崎上島町の断水リスクを低減



④ 宮島海底送水管の二重化（廿日市市水道事業）

宮島の大砂利浄水場を廃止し、三ツ石浄水場（広島西部地域水道用水供給事業）からの送水に切り替えるため、宮島への2本目の海底送水管を整備

〔場所〕

廿日市市阿品～宮島町

〔整備概要〕

海底送水管の整備

〔整備費〕

1,727 百万円（税抜）

〔事業期間〕

令和 5～7 年度

〔効果〕

海底送水管の2重化により、宮島の断水リスクを低減



⑤ 東広島市域工業用水道整備事業（工業用水道事業）

東広島市域での工業用水需要の増加に対応するため、広島水道用水供給事業の施設を活用した新たな工業用水道事業を設置

〔場所〕

広島市安芸区～東広島市

〔整備概要〕

配水管、調整池、ポンプ所の整備

〔整備費〕

5,990 百万円（税抜）

〔事業期間〕

令和 5～8 年度

〔効果〕

新たな工業用水道の設置により、工業用水需要に対応するとともに、県内産業の発展や雇用機会の創出に寄与



⑥ 城山浄水場導送水管整備（府中市水道事業）

用土浄水場を城山浄水場に統合し、城山浄水場からの送水に切り替えるための配水池、導送水管を整備

〔場所〕

府中市城山

〔整備概要〕

配水池、導水管、送水管の整備

〔整備費〕

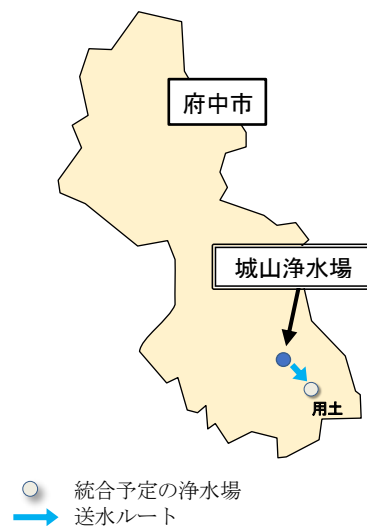
2,400 百万円（税抜）

〔事業期間〕

令和 5～9 年度

〔効果〕

原水水質に課題がある用土浄水場を城山浄水場に統合することで、用土浄水場の水質対策を実施



⑦ 基幹管路の耐震化

老朽化した基幹管路を、耐震性能を有する水道管に更新

〔令和7年度の主な整備箇所〕

配水管布設替工事（楠通小梨線他） 180m（竹原市）
市道幸崎73号線送水管布設工事 400m（三原市）
十日市地区老朽管更新工事 186m（三次市）
鯉の池導水管布設替工事 807m（庄原市）
高屋地区送水管耐震継手補強工事 431m（東広島市）
廿日市市水道事業基幹管路耐震化整備工事 380m（廿日市市）
甲田町下小原地区配水管更新工事 185m（安芸高田市）
明神ハイツ配水管布設替え工事 300m（北広島町）
小国地区配水管布設替工事 330m（世羅町）
八幡川ライン管路更新工事 220m（水道用水供給事業） 等

⑧ 江田島海底送水管の二重化（広島水道用水供給事業）

江田島市への2本目の送水管を整備

〔場所〕

呉市吉浦町～江田島市江田島町

〔事業概要〕

海底送水管の整備

〔整備費〕

1,500 百万円（税抜）

→2,000 百万円（税抜）

※海底磁気探査等の結果、管敷設工事に支障となる

海底の磁気異常点が確認され、不発弾でないかの

調査及び支障物の撤去に必要な費用を追加計上するよう

整備費を見直し

〔事業期間〕

令和5～9年度

〔効果〕

海底送水管の2重化により、江田島市の断水
リスクを低減



⑨ 新成井浄水場新設（竹原市水道事業）

新成井浄水場を整備し、成井浄水場と中通浄水場を新成井浄水場に統合

〔場所〕

竹原市下野町

〔整備概要〕

急速ろ過池、紫外線処理施設の整備
配水池、導水管、送水管の整備

〔整備費〕

6,500 百万円（税抜）

〔事業期間〕

令和5～13年度

〔効果〕

- ・洪水浸水想定区域内にある中通浄水場を新成井浄水場に統合し、浸水対策を実施
- ・土砂災害特別警戒区域内にある成井浄水場の施設を特別警戒区域外に建て替え、土砂災害対策を実施するとともに耐震性を有する新成井浄水場に2浄水場を統合することで地震対策を実施



⑩ 本郷埜田浄水場ろ過池拡張整備（沼田川水道用水供給事業）

本郷埜田浄水場の施設能力を拡張し、片山浄水場（三原市）と河内浄水場（東広島市）を本郷埜田浄水場に統合

〔場所〕

三原市本郷町

〔整備概要〕

緩速ろ過池、浄水池、ポンプ等の整備

〔整備費〕

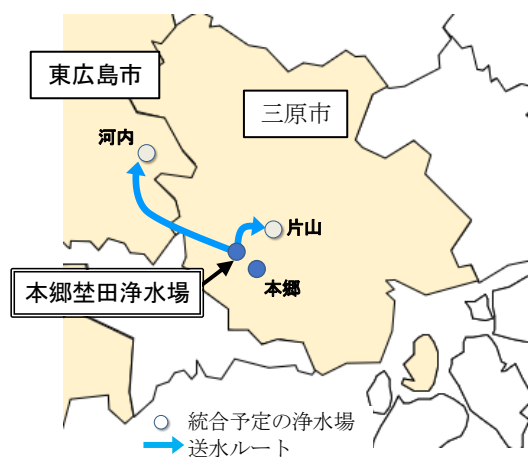
1,900 百万円（税抜）

〔事業期間〕

令和5～8年度
→令和5～9年度

〔効果〕

洪水浸水想定区域内にある片山浄水場を本郷埜田浄水場に統合し、浸水対策を実施



⑪ 本郷埜田浄水場－片山浄水場連絡管整備（三原市水道事業）

片山浄水場を本郷埜田浄水場に統合するに当たり、連絡管を整備

〔場所〕

三原市本郷町

〔整備概要〕

送水管の整備

〔整備費〕

300 百万円（税抜）

〔事業期間〕

令和 5 ～ 8 年度

〔効果〕

洪水浸水想定区域内にある片山浄水場を
本郷埜田浄水場に統合し、浸水対策を実施



イ 今年度に事業内容を精査したもの（５事業）

⑫ 向江田浄水場送水管整備（三次市水道事業）

三次市内の浄水場を向江田浄水場に統合し、向江田浄水場からの送水に切り替えるための送水管を整備

〔場所〕

三次市内

〔整備概要〕

送水管、ポンプ所の整備

〔整備費〕

当初（R4）：2,200 百万円（税抜）
→精査後：5,000 百万円（税抜）

〔事業期間〕

当初（R4）：令和 5～12 年度
→精査後：令和 5～34 年度

〔効果〕

当初（R4）：統合する 13 浄水場の更新費用や維持管理費の縮減
→精査後：統合する 9 浄水場の更新費用や維持管理費の縮減

〔当初（R4）〕



〔精査の必要性〕

- 基本設計での現地測量・調査により
ポンプ施設や新たな水道管整備が必要となったことや、近年の工事コストの上昇額を反映したことなどにより、
整備費が 22 億円（税抜）から、117 億円（税抜）となる見込みとなり、次のとおり事業内容を精査

〔精査後の内容〕

- 将来の水需要などを踏まえ、施設整備の規模や期間を精査
 - ・ R14 までに 5 浄水場を統合
 - ・ R19～R24 に 3 浄水場を統合
 - ・ R31～R34 に 1 浄水場を統合
 - ・ 灰塚及び安田浄水場は、将来の水需要予測を基にダウンサイジングを図り更新

- これにより、整備費を▲67 億円減の 50 億円（税抜）に縮減し、
施設を継続利用した場合と比べて 40 年間のトータルコストを縮減

〔精査後〕



⑬ 土師広域浄水場新設（安芸高田市水道事業、北広島町水道事業）

土師ダムを水源とする土師広域浄水場を整備し、安芸高田市内と北広島町内の浄水場を土師広域浄水場に統合

〔場所〕

安芸高田市八千代町

〔整備概要〕

浄水場、送水管の整備

調整池、ポンプ所の整備

〔整備費〕

当初（R4）：12,100 百万円（税抜）

→精査後：20,600 百万円（税抜）

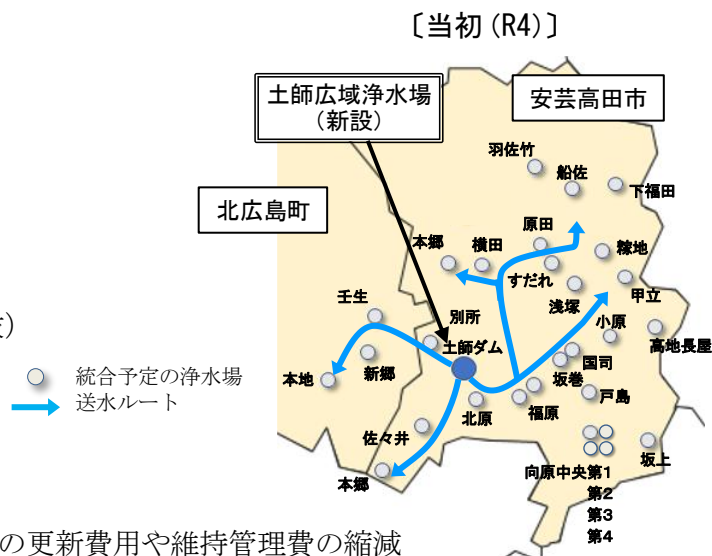
〔事業期間〕

当初（R4）：令和 5～20 年度

→精査後：令和 5～34 年度

〔効果〕

- ・当初（R4）：統合する 29 浄水場の更新費用や維持管理費の縮減
→精査後：統合する 21 浄水場の更新費用や維持管理費の縮減
- ・安定水源である土師ダムの活用により、安芸高田市と北広島町東部の断水リスクを低減



〔精査の必要性〕

- 基本設計での現地測量・調査によりポンプ施設や新たな水道管整備が必要となったことや、近年の工事コストの上昇額を反映したことなどにより、整備費が 121 億円（税抜）から 325 億円（税抜）となる見込みとなり、次のとおり事業内容を精査

〔精査後の内容〕

- 将来の水需要などを踏まえ、施設整備の規模や期間を精査

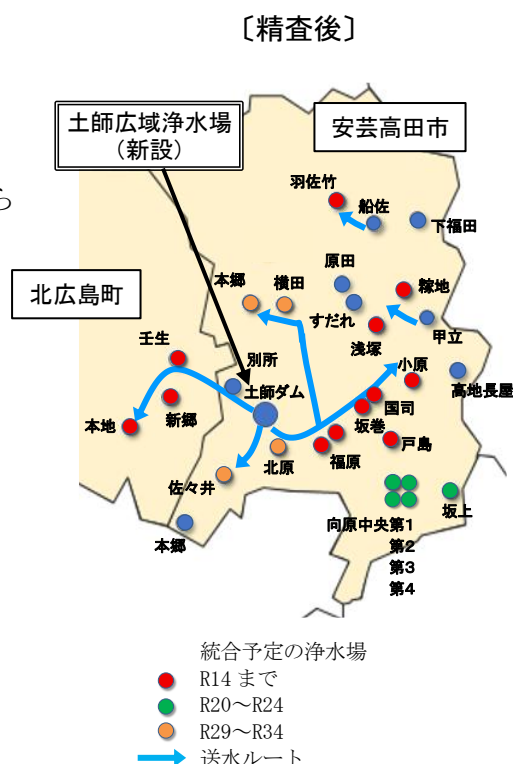
〔安芸高田市〕

- ・R14 までに 9 浄水場を統合
- ・R20～R24 に 5 浄水場を統合
- ・R29～R34 に 4 浄水場を統合
- ・別所など 6 浄水場は、将来の水需要予測を基にダウンサイジングを図り更新

〔北広島町〕

- ・R14 までに 3 浄水場を統合
（送水管及び調整池工事は当初内容（R4）のとおりに進捗中）

- これにより、整備費を▲119 億円減の 206 億円（税抜）に縮減し、施設を継続利用した場合と比べて 40 年間のトータルコストを縮減



⑭ 黒淵浄水場・さかえ浄水場送水管整備（世羅町水道事業）

世羅町内の浄水場を黒淵浄水場・さかえ浄水場に統合し、両浄水場からの送水に切り替えるための送水管を整備

〔場所〕

世羅町内

〔整備概要〕

送水管、配水池、ポンプ所の整備

〔整備費〕

当初（R4）：1,400 百万円（税抜）

→精査後：4,000 百万円（税抜）

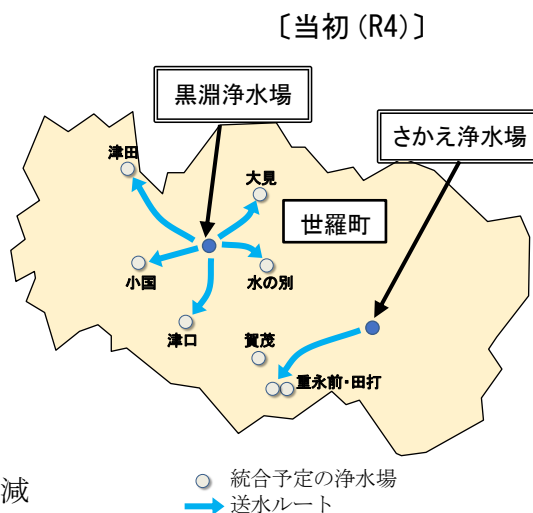
〔事業期間〕

当初（R4）：令和 5～14 年度

→精査後：令和 5～24 年度

〔効果〕

統合する 8 浄水場の更新費用や維持管理費の縮減



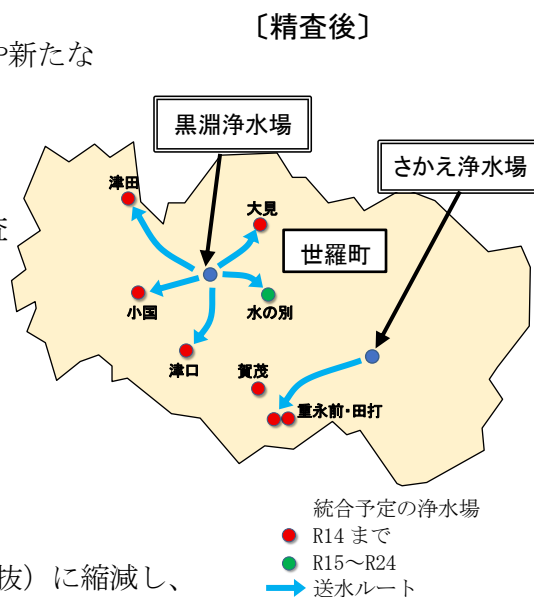
〔精査の必要性〕

- 基本設計での現地測量・調査によりポンプ施設や新たな水道管整備が必要となったことや、近年の工事コストの上昇額を反映したことなどにより、整備費が 14 億円（税抜）から 48 億円（税抜）となる見込みとなり、次のとおり事業内容を精査

〔精査後の内容〕

- 将来の水需要などを踏まえ、施設整備の規模や期間を精査
 - ・ R14 までに 7 浄水場を統合
 - ・ R15～R24 に 1 浄水場を統合

- これにより、整備費を▲8 億円減の 40 億円（税抜）に縮減し、施設を継続利用した場合と比べて 40 年間のトータルコストを縮減



⑮ 前早世浄水場ろ過施設整備（江田島市水道事業）

江田島市内の浄水場を前早世浄水場に統合し、前早世浄水場からの送水に切り替えるためのろ過施設を整備

〔場所〕

江田島市小用

〔整備概要〕

ろ過施設の整備

〔整備費〕

ろ過施設 当初（R4）：500 百万円（税抜）
→精査後：1,400 百万円（税抜）
配水池 当初（R4）：2,000 百万円（税抜）
→精査後：1,600 百万円（税抜）

〔事業期間〕

当初（R4）：令和 6～11 年度
→精査後：令和 6～12 年度

〔効果〕

当初（R4）：統合する 4 浄水場の更新費用や維持管理費の縮減
→精査後：統合する 4 浄水場及び 2 配水池の更新費用や維持管理費の縮減

〔当初（R4）〕



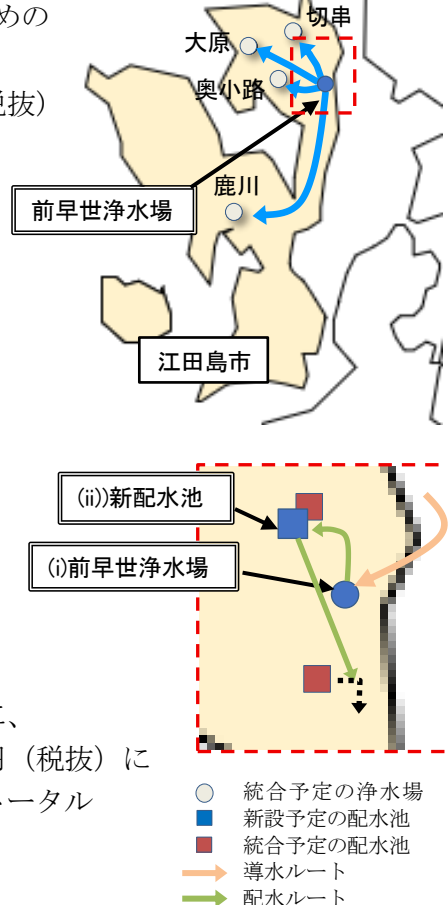
〔精査の必要性〕

- ろ過施設整備において、基本設計により臭気対策のための追加設備が必要となったことや、近年の工事コストの上昇額を反映したことなどにより、整備費が 5 億円（税抜）から 16 億円（税抜）となる見込みとなり、次のとおり事業内容を精査

〔精査後の内容〕

- 前早世浄水場ろ過施設整備による浄水場の統合にあわせて、周辺の配水池を統合
 - (i) 既存用地を活用し、ろ過施設を整備することで、既設ろ過池の撤去を取りやめ
 - (ii) 更新を予定していた 2 配水池についてダウンサイジングを図り新設する配水池に統合（2 池で 4,100m³→1 池で 3,500m³）
- これにより、
 - (i) ろ過施設の整備費を▲2 億円減の 14 億円（税抜）に、
 - (ii) 配水池の整備費を 20 億円から▲4 億円減の 16 億円（税抜）に縮減し、施設を継続利用した場合と比べて 40 年間のトータルコストを縮減

〔精査後〕



⑯ 西野浄水場ろ過施設整備（沼田川水道用水供給事業、三原市水道事業）

西野浄水場（三原市）に、ろ過施設を新設し、宮浦浄水場（沼田川水道用水供給事業）を西野浄水場に統合

〔場所〕

三原市西野

〔整備概要〕

ろ過施設、導水ポンプ、中央監視施設等の整備

〔整備費〕

ろ過施設 当初（R4）：5,000 百万円（税抜）
→精査後：11,300 百万円（税抜）

濁度対策（※1） 5,100 百万円（税抜）（※2）
→精査後：3,300 百万円（税抜）

※1 広域計画策定後に生じた新たな課題

※2 単独で対策を実施する場合の整備費

〔事業期間〕

当初（R4）：令和5～12年度

→精査後：令和5～14年度

〔効果〕

当初（R4）：ろ過施設の新設により、宮浦浄水場の水源及び老朽化対策を実施

→精査後：宮浦浄水場の水源及び老朽化対策に加えて、西野浄水場の水源の濁度対策により、三原市、尾道市島しょ部の断水リスクを低減

〔当初（R4）〕



〔精査の必要性〕

○ろ過施設整備において、基本設計における地質調査の結果、ろ過施設建設予定地の支持地盤対策が必要となったことや、近年の工事コストの上昇額を反映したことなどにより、整備費が50億円（税抜）から141億円（税抜）となる見込みとなり、次のとおり事業内容を精査

〔精査後の内容〕

○ろ過施設整備にあわせて、広域計画後に生じた新たな課題である

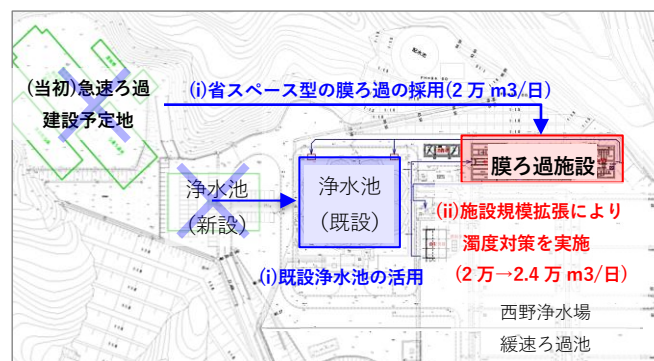
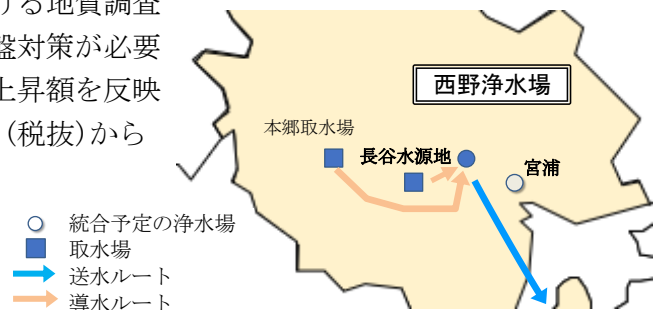
長谷水源地の濁度上昇への対策を一体的に実施

(i) ろ過施設を急速ろ過施設から既存敷地内で整備可能な膜ろ過施設（2万 m³/日）に変更し、既設浄水池、導・送水管の一部を活用

(ii) 濁度上昇対策は、新設する膜ろ過施設の規模を拡張（2万 m³/日→2万4千 m³/日）することにより対応

○(i) (ii) の一体的な整備により、ろ過施設の整備費を▲28億円減の113億円（税抜）に、濁度対策の整備費を51億円から▲18億円減の33億円（税抜）に縮減し、施設を継続利用した場合と比べて40年間のトータルコストを縮減

〔精査後〕



ウ 事業内容を継続検討するもの（2事業）

⑪ 福富広域浄水場新設（広島水道用水供給事業）

福富ダム（沼田川水系）を水源とする福富広域浄水場を整備し、東広島市内の浄水場を福富広域浄水場に統合

〔場所〕

東広島市福富町

〔整備概要〕

浄水場、送水管、調整池等の整備

〔整備費〕

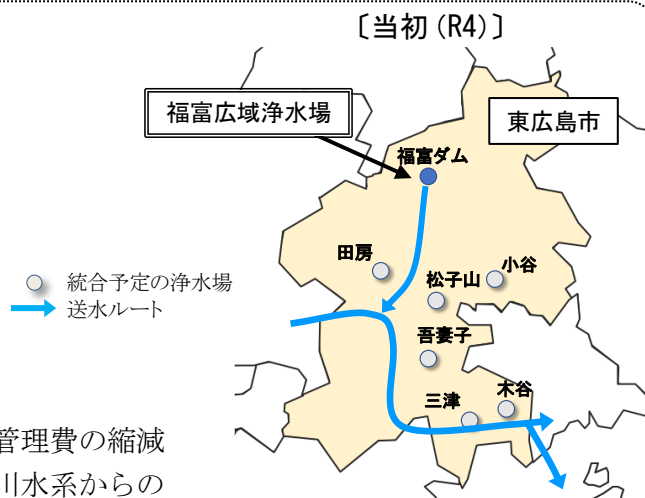
6,500 百万円（税抜）

〔事業期間〕

令和5～13年度

〔効果〕

- ・ 統合する6浄水場の更新費用や維持管理費の縮減
- ・ 太田川水系からの送水に加え、沼田川水系からの送水が可能となり、東広島市、竹原市、大崎上島町の断水リスクを低減



⑫ 広島用水-沼田川用水緊急連絡管整備（広島水道用水供給事業、沼田川水道用水供給事業）

広島水道用水供給事業（太田川水系）と沼田川水道用水供給事業で、緊急連絡管を整備

〔場所〕

東広島市高屋町～河内町

〔整備概要〕

緊急連絡管の整備

〔整備費〕

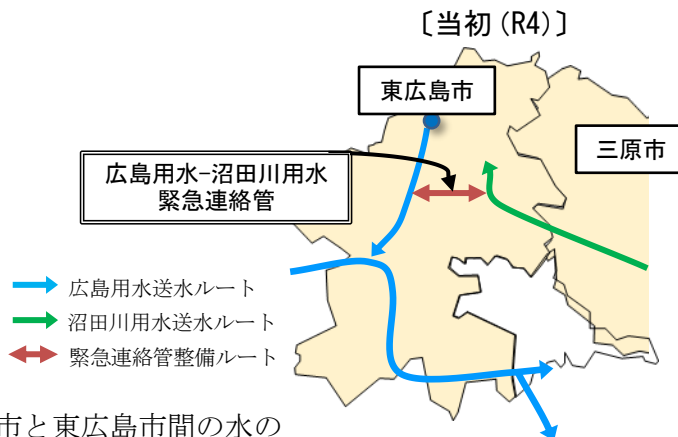
1,700 百万円（税抜）

〔事業期間〕

令和5～11年度

〔効果〕

緊急時に、連絡管を活用して三原市と東広島市間の水の相互融通が可能となり、三原市と東広島市の断水リスクを低減



〔検討の必要性〕

○広域計画策定後に、国（経済産業省）が水道施設を利用した工業用水の供給は可能との見解を示したことなどを踏まえ、東広島地域における水道用水及び工業用水の総合的な供給方法のあり方を整理し、対応を検討している。

〔供給方法のあり方と対応の検討状況〕

○東広島地域における産業発展等を踏まえた将来の水需要を想定し、既存の施設や新たな施設による対応方法を検討した。

- ・既存の浄水場の統廃合に対しては、瀬野川浄水場からの送水により対応できる可能性があること。
- ・東広島地域の東部において、新たな産業団地の造成等が予定されており、これに伴う水需要が見込まれること。
- ・現時点で具体的なニーズは明らかになっていないものの、大規模な水需要があることも想定しておく必要があること。

○東広島地域への給水については、現時点で具体性が高まっている水需要に対して、必要な施設整備を優先的に行うこととし、本郷埴田浄水場の拡張に加え、さらに施設の強靱化等の可否を検討する。

○また、福富広域浄水場などは、東広島地域の将来の水需要の見通しを見極めたうえで、最適な供給方法の検討を進め、事業内容を精査する。

(3) 令和8年度から事業着手を行う予定のもの（1事業）

⑱ 佐伯地区送水管整備（廿日市市水道事業、西部地域水道用水供給事業）

佐伯地区の浄水場を廃止し、三ツ石浄水場（広島西部地域水道用水供給事業）からの送水に切り替えるための送水管を整備

〔場所〕

廿日市市

〔整備概要〕

送水管、ポンプ所の整備

〔整備費〕

2,300 百万円（税抜）

〔事業期間〕

令和5年度以降

〔効果〕

安定水源の活用により、断水リスクを低減

